



7月20日(水)より 夏期講座 **START!!**

夏期講座は、学校の授業がストップしている夏休みを利用して、今までの総復習を行うとても大切な講座です。

受験生にとっては、勝負の夏であり、他の学年も今までの学習の抜けを補っておく必要があります。

同封の夏期申込書を6月24日(金)までに、ご提出をお願いいたします。

(※夏期講座日程は7月中旬に配布を予定しています。)



アクシア三択クイズ

【先月の正解】

『B』

太陽の光が地球に届くまでの時間は約 80 秒ほどだそうです。

【今月の問題】

「初」という漢字の部首名は？

A.しめすへん B.ころもへん C.かたな

今月のTOPIX ～入試の多様化② AO入試～

私立大学では2007年度以降、一般入試による入学者の割合が5割を下回っており、半数以上が推薦入試またはAO入試による入学者となっています。国立大学でも推薦入試・AO入試の導入は進んでおり、国立大学の入学者の約15%、公立大学の入学者の約26%が推薦入試・AO入試で入学しています。特に、AO入試は私立大学を中心に飛躍的に導入が進み、2015年度には464校の私立大学でAO入試を実施しています。すでに概要が「予告」として発表されている大学もありますが、多くは7月に入学者選抜要項が発表されるので、詳細はそちらで確認してください。主要国立大学の推薦入試・AO入試の特徴は、大学入試センター試験（以下、センター試験）を課すものが多いという点です。したがって、推薦入試・AO入試であっても、センター試験が終わる1月中旬まで気が抜けないのです。

2016年度からは東京大で推薦入試が、京都大で「特色入試」と呼ばれる推薦入試とAO入試を組み合わせた試験方式が、それぞれ導入されました。東京大・京都大ともにレベルの高い人材を求めており、東京大の推薦入試では出願時に「卓越した能力を有することを示す客観的根拠となる資料」の提出が求められました。また、京都大の特色入試では出願時に高等学校在学中の顕著な活動歴を記した「学業活動報告書」や、志願者が大学で何を学びたいのか、卒業後はどのような仕事に就きたいのかを記した「学びの設計書」の提出が求められました。これらの書類による選考を通過した志願者に対して面接が行われ、さらにセンター試験で一定以上の成績を取った者が最終合格者となったのです。合格者数は、東京大が募集人員100人程度に対して77人、京都大が募集人員108人程度に対して82人でした。

東京大・京都大に引き続いて、2017年度からは大阪大で「世界適塾入試」と呼ばれる推薦入試とAO入試を組み合わせた試験方式が導入されます。出願時に「志望理由書」や高等学校長が作成する「志願者評価書」を提出することになっており、学部により書類選考や小論文、面接または口頭試問が行われ、さらに国際科学オリンピックAO入試を除き、センター試験も課されるため、条件はかなり厳しいものになりそうです。

AO入試は、1990年に慶應義塾大が湘南藤沢キャンパス(SFC)で最初に導入した入試方式で、その後(特に2000年以降)私立大学を中心に急速に拡大した制度です。AO入試は、大学が求める人物像(アドミッション・ポリシー)に合致した学生かどうかを基準に、書類や面接などで合否を判定する入試方式です。したがって、原則として学力試験は課されず、志望動機や意欲、将来性などを中心に評価されます。しかし、大学によってアドミッション・ポリシーは異なるうえに、意欲や将来性を評価する手段はさまざまであるので、AO入試のスタイルは非常にバラエティに富んでいるといえるでしょう。多くの場合、1次選考は書類審査となります。エントリーシートに志望動機や高校での活動実績、将来の学習への意欲などを記入し、大学が定めるアドミッション・ポリシーに合致するかどうか審査されます。1次選考を通過した者には、2次選考として面接試験や小論文試験などが課される場合が多いです。大学によってはプレゼンテーションやディスカッション、フィールドワークなど、より実践的な試験が課されることもあります。

国立大学では、センター試験が課される場合と課されない場合があります。難関国立大学ではセンター試験を課す場合が多いので、合格するためにはアドミッション・ポリシーに合致するだけでなく、総合的な学力も必要になってきます。AO入試では、志望動機や大学での研究内容などを具体的に述べる必要があるため、オープンキャンパスに積極的に参加したり、自分の進みたい分野の本を読んだりするなど、大学で何を学びたいかを考える材料を集めておくことが重要となります。

一方、2010年度以前はAO入試の出願時期の制限がなかったため、学生をいち早く確保したい私立大学が実施時期をどんどん前倒しにしてしまい、「学生の青田買い」につながったとの批判がありました。このため、2011年度以降はAO入試の出願時期が8月1日以降に制限されています。しかし、大学のなかにはそれ以前に「エントリー」を受け付けているところもあります。大学によっては出願前の「エントリー」の段階で予備審査として面接などを行って出願可否通知(内定)を出すところもあります。この場合、内定が得られなければ「出願」できないことになり、事実上の合否判定が「出願」の前に決まってしまう。

